

【41】 “発明は必要の母”

この表題は誤りではありません。
文字通りの意味で意図して書かれています。

人類は、その優れた頭脳により、農耕から戦争に至る種々の活動や衣食住などの生活に不便があれば、工夫を重ねて従来なかった新しい道具や機械を生み出す、すなわち、発明することにより不便を解消し便利にしてきました。

まさしく、“必要は発明の母”だったのです。

しかし、現代では、途方もなく広がった科学上の知識と高度に進歩した技術の応用として、以前には想像もしなかったような新しい装置や機器が開発され、その先進性に負けまいと、それらの装置の使い方を探す、あるいは、新しいニーズが生まれるということが起こっています。

急速に普及しているスマートフォンとかドローンとかはその代表例です。

もともと軍事目的で開発されたドローンが、測量や地表面の調査や探索などに種々のニーズを見出して民間に普及してきています。

デジタル化したウォークマン、電子カメラ、計算機などの機能を合わせもった携帯電話たるスマートフォンは、インターネットの広範な可能性と相俟って、次から次へと新しい利用法が生み出され、今では一般の市民にとって無くてはならぬ総合的情報装置になりました。

新しい発明が、今まで気づかなかった人々の行動や欲望を刺激し新しいニーズ、新しい必要性を生み出すのです。

正に、“発明は必要の母”という時代になりました。